

【見附市 最新ろ過方式へ期待 青木浄水場が着工】

# 最新ろ過方式へ期待

## 青木浄水場が着工

見附市

見附市で1日、「青木浄水場更新事業設計及び建設工事安全祈願祭」が挙行され、出席した30人の関係者が工事の無事を祈った。

県内で初のDBO方式による浄水場更新事業は9月に契約を締結。総事業費110億6600万円。設計建設期間は2021年3月31日。翌月から41年3月までを運転維持管理期間とする一連の事業をメタウォーターグループが請け負う。

新施設は既存浄水場の隣接地に新築。県営圃場整備事業に係る取得方法



関係者による神事

なった。おいしい水で全国に誇れる施設にしてほしい。無事の工事完了を願う」と起工を喜んだ。

長岡市長の祝辞を代読した中野一樹地域政策監は「長岡市の中之島地域は1973年から見附市より水供給を受けている。今後の安定供給に寄与する工事」と歓迎。

また、施工者の鹿島建設(株)北陸支店河本克正常務執行役員支店長は「50年にわたり水を供給してきた基幹浄水場の工事であり、見附市の水道ビジョンを実現するもの。意義深い事業の参画に重

責を感じている」と身を引き締めた。最後にあいさつしたメタウォーター(株)の酒井雅史PPP本部執行役員本部長は、市に提案した3つのコンセプトに言及し「安心・安全、おいしい、市民の幸せを創る」と宣言。最新設備によるおいしく安全な水の供給事業に、地元企業の業や人材の活用も示唆。「地域活性化にも貢献したい。市民に愛される施設になるよう願っている」と抱負を述べた。

メタウォーターグループの構成企業は、メタウォーター(機械・電気)、中央設計技術研究所(設計)、鹿島建設(土木・建築)、メタウォーターサービス(運転・維持管理)、緑水工業(運転・維持管理)、ジェスクホリウチ(運転・維持管理)。

久住時男市長は「地震に強く浄水能力を高めた施設を建設すべし」と